

今期の所蔵作品展「MOMAT コレクション」の中から、見どころを紹介します。

## 所蔵作品展「MOMAT コレクション」

### 2023年3月17日（金）—2023年5月14日（日）

今期の見どころをご紹介します。4階の1-4室では、1階で開催する企画展「東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密」にからめて、重要文化財ではない作品によって重要文化財を照らし出します。また4階5室ではパウル・クレーの新収蔵品をお披露目し、3階10室では毎年恒例の「美術館の春まつり」を開催します。昨年12月に開館70周年を迎え、次の10年への一步を踏み出す今期は、振り返りと展望を随所に盛り込んだコレクション展になっています。

## 重文作家の秘密

所蔵品ギャラリー 4階2室

例えば、当館所蔵の平福百穂《荒磯》は、彼の重文作品《豫讓》より数多く画集などに掲載されています。制作年が9年早い《豫讓》に芸術的達成の発端が認められ、画壇への影響力が大きかったことが重文指定の決め手でした。また、当館蔵の下村観山《木の間の秋》は、同じく重文の《弱法師》よりも画集掲載数で上回ります。これは、1990年代以降に明治時代後半における琳派ブームに関する研究が進み、実践例としてこの作品が注目されるようになったことが要因のひとつです。作品が重要文化財に指定されている作家による、重要文化財以外の作品を通して、当館コレクションならではの「秘密」をお見せします。



1. 下村観山《木の間の秋》1907年

コレクションによる小企画

## 修復の秘密

所蔵品ギャラリー 2階ギャラリー4

開館以来70年の歴史の中で、当館は数多くの修復家と共同して、所蔵作品の適切な保存に努めてきました。修復とは、物言わぬ作品を吟味し、技法や素材の特性を明らかにしていく技術です。それゆえ修復家はしばしば、作家のコンセプトや作品の表現へ近づく道筋をも示してくれます。作者なき後に、制作の核心に迫ろうと推理をめぐらす修復家の卓抜な腕、眼、頭、そして彼／彼女らが解き明かす作品の秘密に触れていただければ幸いです。



2. 安井曾太郎《金蓉》1934年（左は修復前、右が修復後）



「MOMAT コレクション」では、13,000点を超える所蔵作品から選りすぐりの約200点を、会期ごとに3フロア、12の部屋に分けて展示します。19世紀末から現代までの日本美術の歴史を、海外作品も交えながら、毎回多様な切口で紹介しています。

### 【プレスリリース お問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 小川・堀田

TEL: 03-3214-2565 (直通) FAX: 03-3214-2576 Email: pr-f@momat.go.jp



東京国立近代美術館

今期の所蔵作品展「MOMAT コレクション」の中から、見どころを紹介します。

## 春の屏風まつり

所蔵品ギャラリー 3階 10室

毎年恒例の「美術館の春まつり」。今年は特別に、桜や花にちなんだ屏風ばかり6点を集め、屏風という形式そのものの楽しみをお伝えします。画家たちはなぜ好んで屏風に描くのか？それは、①画面が大きいから、②収納が便利だから、③屏風のジグザグの折れに独特の画面効果が望めるから、などが考えられます。ではそのうえで、屏風にはどのような主題が選ばれ、画家は屏風の効果をどのように計算に入れて描くのか。ただの平面ではない屏風の秘密を、会場でご覧ください。

モダンなグラフィックで大人気の杉浦非水「非水百花譜」も23点展示します。



3. 船田玉樹《花の夕》1938年



4. 杉浦非水《「非水百花譜」

第6輯-1やへざくら(八重桜)》1920-22年、国立工芸館蔵

## 新収蔵 & 特別公開 | パウル・クレー 《黄色の中の思考》

所蔵品ギャラリー 4階 5室

日本でもたいへん人気が高いアーティスト、パウル・クレー。当館では、日本の近代美術に与えた影響の大きさから、最も重要な海外作家の一人としてコレクションを充実させてきました。2021年度の新収蔵品《黄色の中の思考》は、長く個人が所有し、ほとんど人目に触れることのなかった作品です。今回、この作品のお披露目として、当館が所蔵するクレー作品全15点と、クレーに関わりの深い作品を集めて紹介します。



5. パウル・クレー

《黄色の中の思考》1937年



「MOMAT コレクション」では、13,000点を超える所蔵作品から選りすぐりの約200点を、会期ごとに3フロア、12の部屋に分けて展示します。19世紀末から現代までの日本美術の歴史を、海外作品も交えながら、毎回多様な切口で紹介しています。

### 【プレスリリース お問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 小川・堀田

TEL: 03-3214-2565 (直通) FAX: 03-3214-2576 Email: pr-f@momat.go.jp

今期の所蔵作品展「MOMAT コレクション」の中から、見どころを紹介します。

## ハイライト 所蔵品ギャラリー 4階1室

今期のハイライトは、重要文化財の作品のほとんどを男性作家が占めることを踏まえ、男女の作家を同数にして当館の名品をご紹介します。単純に数を揃えただけで問題が是正されるわけでないことはもちろんですが、これまでの価値基準を問い直し、今後の調査研究や収集につなげていくための試みです。開館70周年を迎えた当館は、これからの時代を見据え、過去の美術に対しても新たなアプローチに取り組んでいきます。



6. 太田聴雨《星をみる女性》1936年

東京国立近代美術館 70周年記念事業

## イサム・ノグチ《門》10年ぶりの塗り替え

《門》は、1969年に当館が京橋から現在の所在地である北の丸公園への新築移転にあわせて設置されました。設置されたときの色は「赤」でしたが、その後はイサム・ノグチ本人の指示により、塗り替えのたびに色が変わることになっています。

「赤」を例外に、「赤+黒」、「青」、「黄+黒」の3ヴァージョンができて、現在はこの3つを順に繰り返すことになっています。昨年12月の塗り替えにより、作品の色が「赤+黒」から「青」に10年ぶりに変わりました。



7. イサム・ノグチ《門》1969年

## 授乳室の新設

小さなお子さまとご一緒に気がねなくご来館いただけるよう、1階エントランスロビーに授乳室を新設します。



「MOMAT コレクション」では、13,000点を超える所蔵作品から選りすぐりの約200点を、会期ごとに3フロア、12の部屋に分けて展示します。19世紀末から現代までの日本美術の歴史を、海外作品も交えながら、毎回多様な切口で紹介しています。

### 【プレスリリース お問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 小川・堀田

TEL: 03-3214-2565 (直通) FAX: 03-3214-2576 Email: pr-f@momat.go.jp

## 開催概要

**タイトル**：所蔵作品展「MOMAT コレクション」（しょぞうさくひんでん もまっとこれくしょん）  
（英）Collection Exhibition MOMAT Collection

**会場**：東京国立近代美術館所蔵品ギャラリー 4階から2階

**会期**：2023年3月17日（金）—5月14日（日）

**休館日**：月曜日（ただし3月27日、5月1日、8日は開館）

**開館時間**：10:00—17:00（金曜・土曜は10:00—20:00）※入館は閉館30分前まで

**観覧料**：一般500（400）円／大学生250（200）円

※（）内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 ※金曜・土曜の17時以降は、割引料金。一般300円、大学生150円。  
※高校生以下および18歳未満、65歳以上は無料。※障害者手帳をご提示の方とその付添者（1名）は無料。

**住所**：〒102-8322 千代田区北の丸公園3-1

**アクセス**：東京メトロ東西線「竹橋駅」（1b出口）徒歩3分

**一般のお問い合わせ**：050-5541-8600（ハローダイヤル）

**ウェブサイト**：<https://www.momat.go.jp>

**主催**：東京国立近代美術館

**同時開催**：企画展「東京国立近代美術館70周年記念 重要文化財の秘密」

2023年3月17日（金）—5月14日（日）

公式サイト <https://jubun2023.jp/>

「重要文化財の秘密」のチケットで、入館当日に限り所蔵作品展「MOMAT コレクション」もご覧いただけます。

※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、開催内容、開館時間等が変更になる可能性があります。  
最新情報はウェブサイトにてご確認ください。



東京国立近代美術館は、皇居のほど近くに建つ、日本で最初の国立美術館。1952年に開館し、2022年12月1日に開館70周年を迎えました。最大の特徴は重要文化財18点（うち2点は寄託）を含む13,000点を超える国内最大級のコレクション。19世紀末から今日まで、国を代表する多数の名作を所蔵しています。都会の真ん中でありながら自然豊かなエリアに位置し、最上階の休憩室「眺めのよい部屋」からは、皇居の緑と丸の内ビル群のパノラマ・ビューをお楽しみいただけます。

### 【プレスリリース お問い合わせ先】

東京国立近代美術館 美術課 | 広報担当 小川・堀田

TEL: 03-3214-2565（直通） FAX: 03-3214-2576 Email: [pr-f@momat.go.jp](mailto:pr-f@momat.go.jp)